

# 日本で出版された診療ガイドラインの文献検索の状況

阿部信一

東京慈恵会医科大学学術情報センター

様々な健康関連の課題について最適な治療法等を提示する診療ガイドラインは、日本医療機能評価機構の Minds の取り組みもあって、「エビデンス」に基づいて作成されるものが増えてきた。日本医学図書館協会（JMLA）では、受託事業として診療ガイドライン作成支援のための文献検索を行っている。そのための作業チームとして、2008 年度に受託事業委員会の下に診療ガイドラインワーキンググループが設置され、2024 年度には 24 の診療ガイドライン作成のための文献検索を受託した。2025 年度のワーキンググループは、約 20 名の個人会員と 10 の機関会員から構成されている。

今回、2024 年 1 月～12 月に日本で出版された診療ガイドラインの作成方法や検索状況について調査した。丸善雄松堂の Knowledge Worker や紀伊国屋書店の Bookweb Pro、Amazon、CiNii などから 55 の診療ガイドラインが確認された。以前に行った同様の調査で確認された、2015 年 1 月～12 月の 61、2016 年 1 月～12 月の 47 の診療ガイドラインの内容とも比較した。

日本の診療ガイドラインは医学会や研究班で作成されるものが多いが、出版は商業出版社によるものが多い。最も多くの診療ガイドラインを出版しているのは金原出版で、2015 年(27)、2016 年(16)から変わらず、2024 年には 20 の診療ガイドラインを出版していた。次いで、南江堂、協和企画、診断と治療社が常に上位を占めている。また、多くの診療ガイドラインは Minds の「診療ガイドライン作成の手引き」に従って作成されていて、「手引き」が普及し始めた 2016 年当時は 68%の診療ガイドラインが「手引き」に準拠していたが、2024 年は 78%に増加していた。一方でまだ独自の方法で作成されている診療ガイドラインも少なくないことがわかった。「手引き」に準拠した診療ガイドラインのほとんどは文献検索の方法についても記載があり、2016年と同様に 2024年でもそれらのすべてで PubMed (MEDLINE) が検索されていた。

現在の JMLA の診療ガイドラインワーキンググループで国内のすべての診療ガイドラインのための文献検索を受託することは困難であり、依頼が集中する時期には受付を中止している。そのためか、各ガイドラインのシステムティックレビュー・チームや CQ 担当者が検索を行ったり、所属先の図書館などに相談しているとの記載も見られた。特に所属先の図書館による文献検索のサポートは図書館の本来業務であるとも言え、図書館職員の専門性の理解にもつながると考えられる。一方、診療ガイドライン作成のための文献検索は大量の CQ 数と検索結果の取り扱いが簡単ではない。今後の JMLA の支援事業のあり方としては、診療ガイドライン作成に特化したワークショップの開催や講演会の企画、相談窓口などを通して、各図書館のサポートを行うことが重要である。